

『創価教育』の発刊にあたって

神 立 孝 一

創価教育研究所が開設されて、満2年が経過した。この間、さまざまな資料の収集と共に、創立者池田大作先生の研究をはじめ、創価大学に関連する歴史的な調査が行われてきた。研究成果を紀要にまとめ発刊したいという希望は、研究所設立当初から関係者のなかで共通するものであったが、ここに『創価教育』というタイトルの紀要を発刊するはこびとなった。関係者の方々の努力とご配慮に、まずは心から御礼を申し上げたい。

創価教育研究センター時代には、紀要『創価教育研究』を発行してきたが、それは6冊に及び、創立者研究の嚆矢をなすと共に牧口常三郎研究の新展開をもたらす役目を担ったと自負している。こうした諸研究をさらに発展させる使命を帯びて発刊されるのが、本誌『創価教育』であろう。

本研究所は、昨年2月、アメリカ合衆国の南イリノイ大学にあるジョン・デューイ研究所と学術協定を結び、研究所付置の「ジョン・デューイ研究センター」を開設した。これで「池田大作研究センター」とともに二つ目の下部機関が設けられたことになる。研究の裾野が広がりつつあることの証左といえよう。

さて、この数年間に創立者・池田大作先生に関する研究が急速に増えてきている。池田先生の評伝をはじめ、その思想・哲学・文学・芸術・教育と多方面からの分析がなされるようになってきた。就中、中国におけるそれは、新世代の若き研究者たちを巻き込んで、壮大な運動になりつつあることを実感する。中国の現状を、「池田思想」によって変革したいという意欲は、特に大学関係者に顕著であるといえよう。他のさまざまな国でも、その取り組みがはじまろうとしている。こうしたなかにあって、本研究所の果たさなければならない役割は日ごとに重要性を増しているといわざるを得ない。その意味からも、本誌の創刊はひとつの画期をなすものであろう。

創立者が学生たちに語ったなかに

「人生にとって大切なのは価値と平和の創造です。そのための根幹が教育です」とある。「新しき価値の創造」こそが「創価教育」の核であるならば、本誌には、まさに新しき価値がちりばめられていなければならない。創価大学の新たな幕開けの時期にあたり、本誌がさらなる発展の原動力になることを誓い合いたい。

多くの読者の叱責とご教示を心より願うものである。